

# 笠岡市財政運営適正化計画



生きている化石

カブトガニを守るまち

## はじめに

平成28年度は、第6次総合計画の後期基本計画の3年目となりました。前期後期をあわせた8年計画では7年目を迎えることとなり、「市民協働で築くしあわせなまち 活力ある福祉都市かさおか」の実現に向けて、後期基本計画に掲げた施策を推進し、確実に成果を出すとともに、第7次総合計画の策定に向けて、準備に着手する重要な年となっています。

昨年8月には笠岡市の目指すべき将来の方向性や人口の中期展望となる『笠岡市人口ビジョン』と今後5か年の目標や具体的な施策をまとめた『笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。

戦略に掲げた施策は、「笠岡の強みを活かす」「若者や女性が活躍できる社会をつくる」などを基本姿勢とし、これまで取り組んできた「定住促進」や「産業振興」などを更に創造的に発展させ、人口減少を抑制し、これから20年、30年先の笠岡市の未来を見据えて、地域の特性を活かした持続可能な社会を創生していくことを目指したものです。

人口ビジョンや戦略の中で示した人口等の目標を達成するため、戦略に掲げた事業は、効果を検証し、見直しを図りながら、積極的に推進し、ハード・ソフトの両面から、思い切った施策を展開していきます。

一方、市税や地方交付税などの一般財源は縮小傾向にある中で、社会保障関係経費は年々増額していく見込みであり、今後の財政運営は非常に厳しいものとなることを見込まれます。これまで取り組んできた債務の縮減等の財政健全化策は、一定の成果が出ていますので、今後は「ふるさと笠岡思民寄附金」などの収入額を増やすなど自主財源の確保についても積極的に取り組みます。

活力溢れるまちづくりで人口減少を抑制し、市民の皆様が幸福を感じ、子どもたちが生まれて良かった、住んで良かったと思えるような笠岡にするために、市議会、市民の皆様と共に考えながら、様々な施策を推進してまいります。



笠岡市長 小林嘉文

平成28年9月策定

## 見直しのポイント

- ・ 自主財源確保として、ふるさと納税を増額するための取組を強化します。
- ・ 公共施設の長寿命化、適正化を進めると共にサービスの向上を図ります。
- ・ 特別会計、企業会計、土地開発公社を含めた市全体の市債残高の推移を載せました。



笠岡初オリンピック BMX 競技 日本代表 長迫吉拓選手

## 目次 : contents

- 1 財政状況・・・・・・・・・・2
- 2 中期財政見通し・・・・・・・・9
- 3 財政運営適正化計画・・13
- 4 財政指標等の見通し・・18
- 5 用語解説・・・・・・・・・・21

- ・ 財政健全化法について (巻末)

## ①財政状況

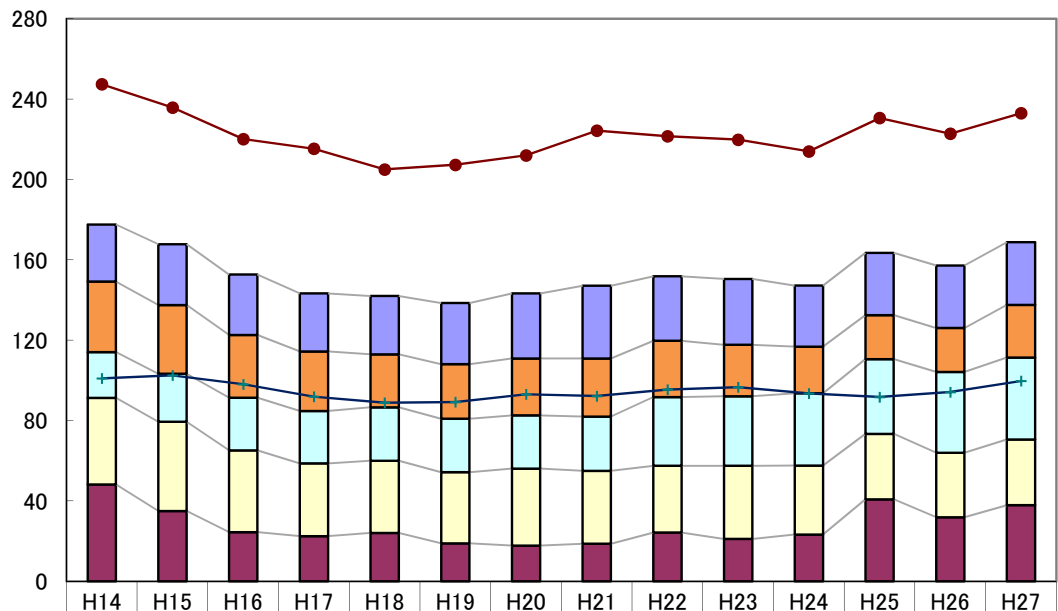
平成 27 年度 普通会計決算の特徴

歳入	市 税	・法人市民税の減により減少	(対前年△ 1.7%)
	地方交付税	・臨時財政対策債の減により減少	( " △ 1.2%)
	建設地方債	・給食センター用地取得により増加	( " +57.6%)
歳出	公 債 費	・用地取得債の繰上償還により増加	( " +19.5%)
	補助費等	・笠岡湾干拓負担金の終了により減少	( " △12.4%)
	普通建設	・テニスコート整備事業等により増加	( " +18.7%)

### 普通会計とは…

本市の場合、一般会計とへき地診療会計、相生墓園会計及び公共用地取得会計をまとめたもの。

億円 歳出決算額の推移



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
うち繰出金	28.4	30.3	30.1	28.9	29.0	30.4	32.4	36.2	32.1	32.8	30.4	31.0	31.1	31.2
うち公債費	35.1	34.2	31.2	29.6	26.4	27.2	28.3	28.9	28.0	25.6	23.2	21.9	21.9	26.2
うち扶助費	22.8	23.9	26.2	26.1	26.6	26.6	26.5	27.0	34.2	34.6	36.0	37.2	40.2	40.8
うち人件費	43.1	44.4	40.7	36.2	35.9	35.4	38.3	36.3	33.2	36.4	34.3	32.6	32.1	32.7
うち普通建設事業費	48.2	35.0	24.5	22.5	24.1	18.9	17.8	18.7	24.3	21.1	23.3	40.8	31.9	37.9
歳出決算額	247.4	235.8	220.1	215.3	205.0	207.3	212.0	224.3	221.5	219.8	214.0	230.6	222.8	233.0
義務的経費	101.0	102.5	98.1	91.9	88.9	89.2	93.1	92.2	95.4	96.6	93.5	91.7	94.2	99.7

近年、景気は緩やかな回復基調で推移してきましたが、平成 27 年度は、アジア経済等の景気減速の影響もあり、低調なものとなりました。しかし、雇用の改善や賃金の上昇により個人所得については、回復が見られました。

平成 27 年度では、『教育』『子育て支援』『防災・減災』『産業振興』について、引き続き重点を置いて実施するとともに、学校施設空調整備、テニスコート・クラブハウス整備等、ハード事業についても近年にない規模で積極的に実施しました。また、「笠岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をいち早く策定し、地方創生事業について前倒しで推進を図りました。

## ②建設事業費の推移

H27の建設事業費は、防災無線整備や学校施設空調整備、テニスコート整備等により単独事業が大幅に増加し、近年にない規模となっています。

H25の方が大きい額ですが、土地開発公社経営健全化計画に基づく、公社土地の先行取得事業（約10億円）を実施したため、それを除けばH27の方が上回っています。

### 補助事業

国の補助金による建設事業。

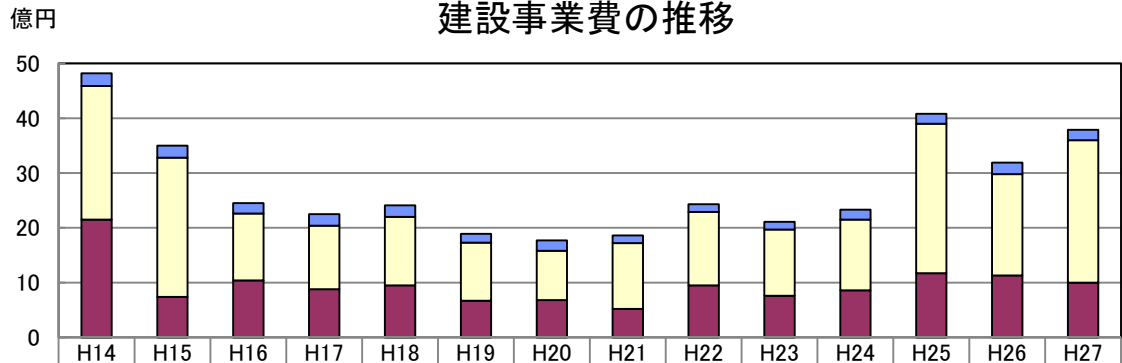
### 単独事業

市独自の建設事業。

### 県営事業負担金

県が施工する工事に対する市の負担金。

建設事業費の推移



## ③主な一般財源の推移

主な一般財源は、H26より増加し、150億円を上回りました。

地方交付税本来分は、臨時財政対策債の減により、H26に引き続き、前年度を下回りました。市税も法人市民税の減により、H26より減となりましたが、諸税は地方消費税交付金の増により、大幅な増となっています。

### 一般財源

市税、地方交付税など使い道が特定されず、どのような経費にも使える財源。

### 特定財源

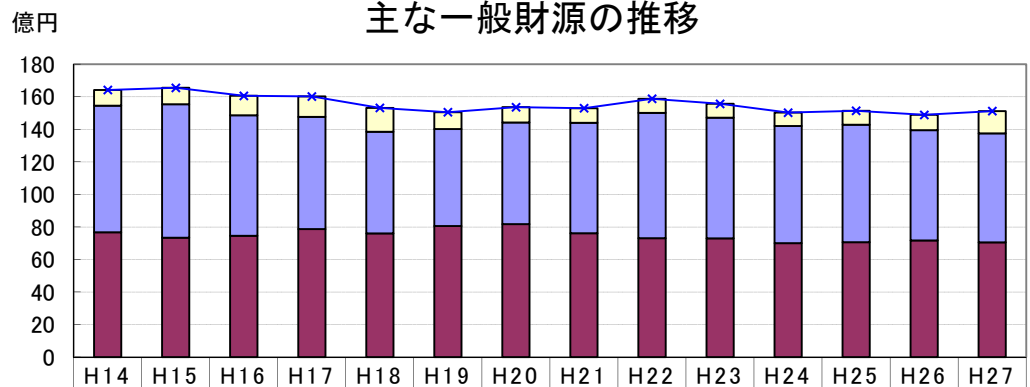
国・県支出金、使用料、手数料など用途が特定されている財源。

地方交付税本来分には、臨時財政対策債を含みます。

市税本来分には、地方特例交付金を含みます。

諸税とは、地方譲与税や地方消費税・自動車取得税等の交付金のことです。

主な一般財源の推移



### ④基金の取崩額の推移

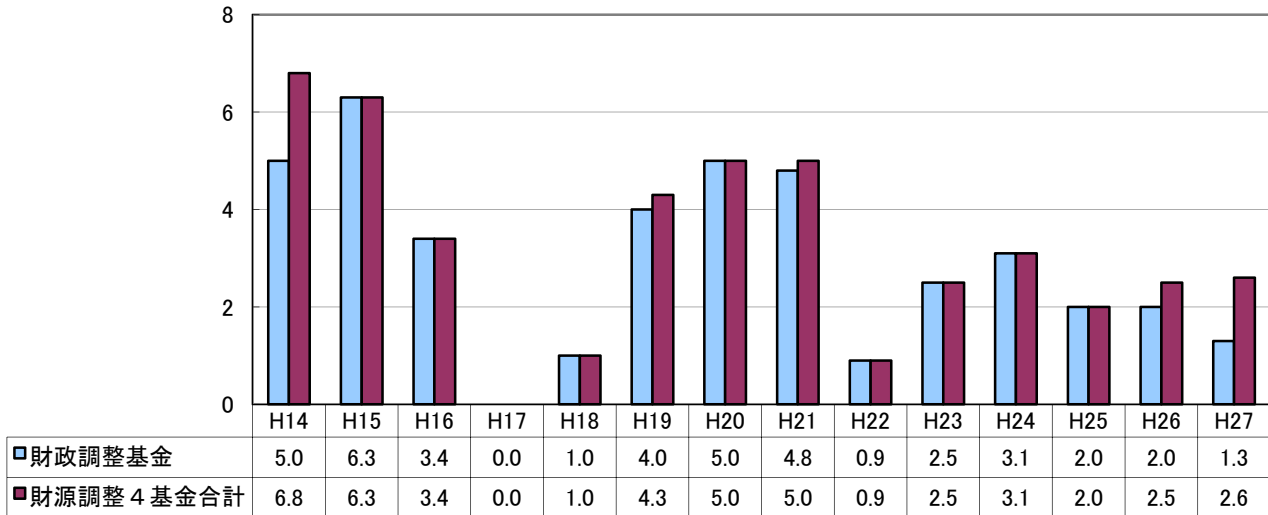
H16 までは、普通建設事業費と取崩額が比例する傾向にありましたが、H18 以降は、地方交付税等の減収のために取崩額が多くなってきています。

H27 では、H26 に比べて財政調整基金の取崩額は減となりましたが、義務教育施設整備基金、公共施設整備基金の取崩額が増となりました。

#### 財源調整 4 基金

- ・ 財政調整基金
  - ・ 減債基金
  - ・ 義務教育施設基金
  - ・ 公共施設整備基金
- ※ 財源不足を補うための市の貯金。

億円 基金の取崩額の推移



### ⑤基金残高の推移

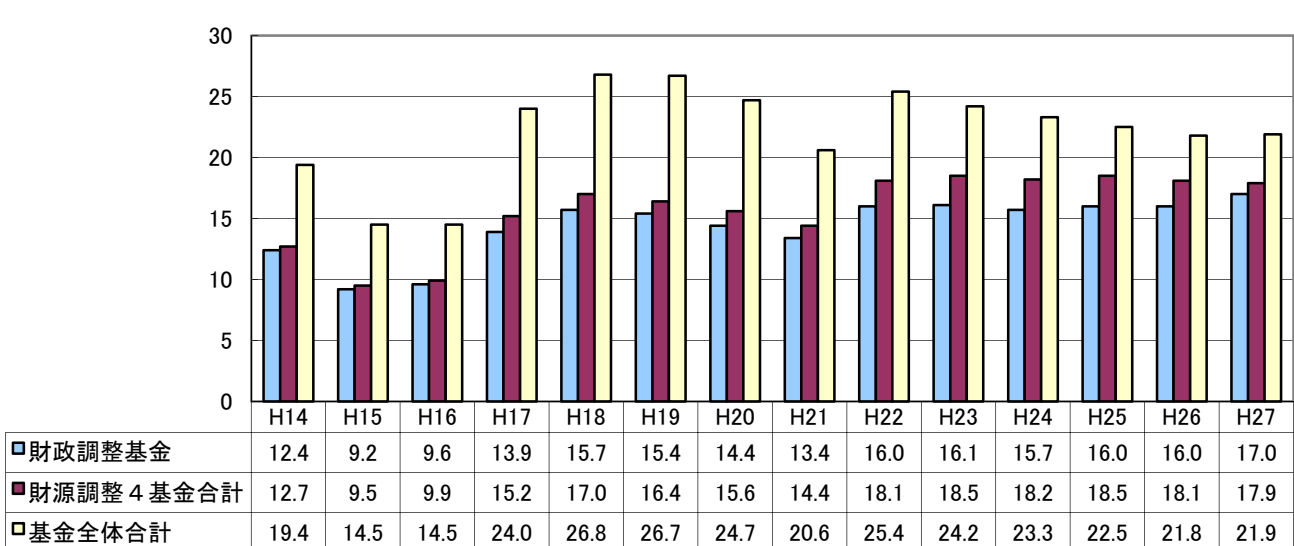
財政調整基金は、目標を 20 億円（予算規模の約 10%）としています。

H27 では、財政調整基金は取崩額以上に積立てることが出来ましたので、残高は約 1 億円増となり、基金全体で残高は増となりました。



カブニくんカブ海ちゃん結婚

億円 基金残高の推移



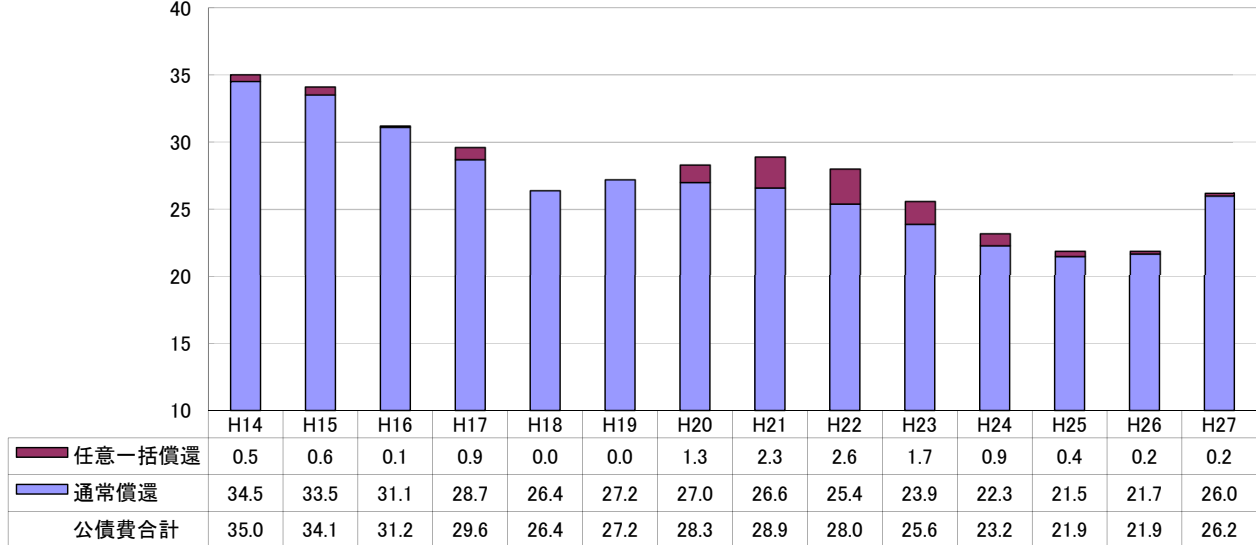
### ⑥公債費（元利償還金）の推移

#### 公債費

長期借入金の返済額（元利償還金）と一時借入金の利子の合計額。

公債費のピークはH11で35.2億円でした。その後は減少傾向となっています。H27は、公共用地先行取得債の借換のための償還（5.5億円）により大幅増となっています。

億円 公債費の推移



### ⑦市債発行額の推移

#### 建設地方債

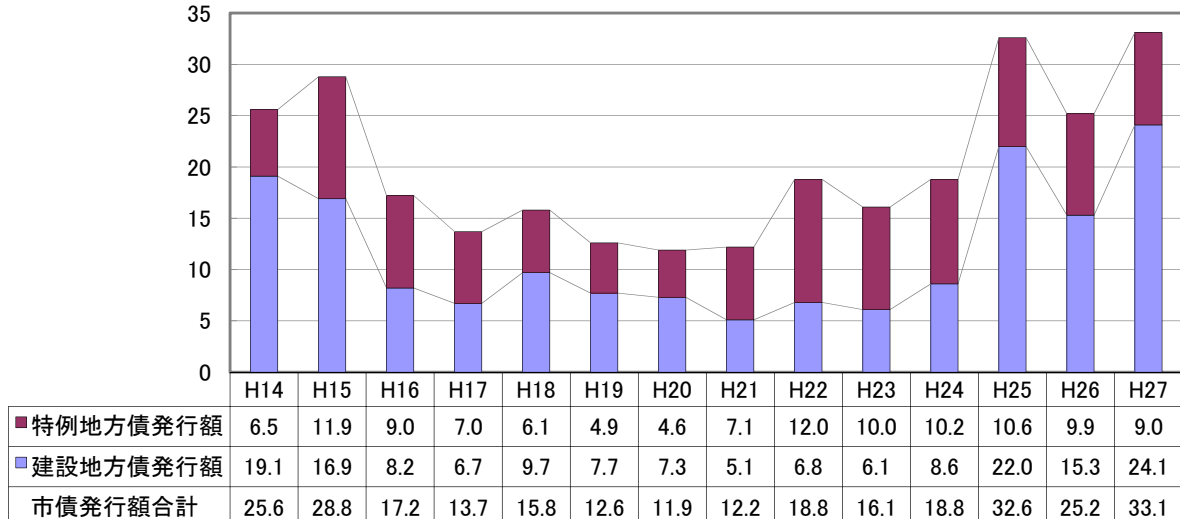
建設事業の資金調達のための借金。

#### 特例地方債

臨時財政対策債など赤字補てん、財源補てんのための借金。

H27は、給食センターの建設用地取得やハード事業の積極的な実施により、近年にない大きな額となりました。H25は、土地開発公社の経営健全化計画に基づいた、公共用地先行取得事業債を発行したため額が大きくなっています。

億円 市債発行額の推移



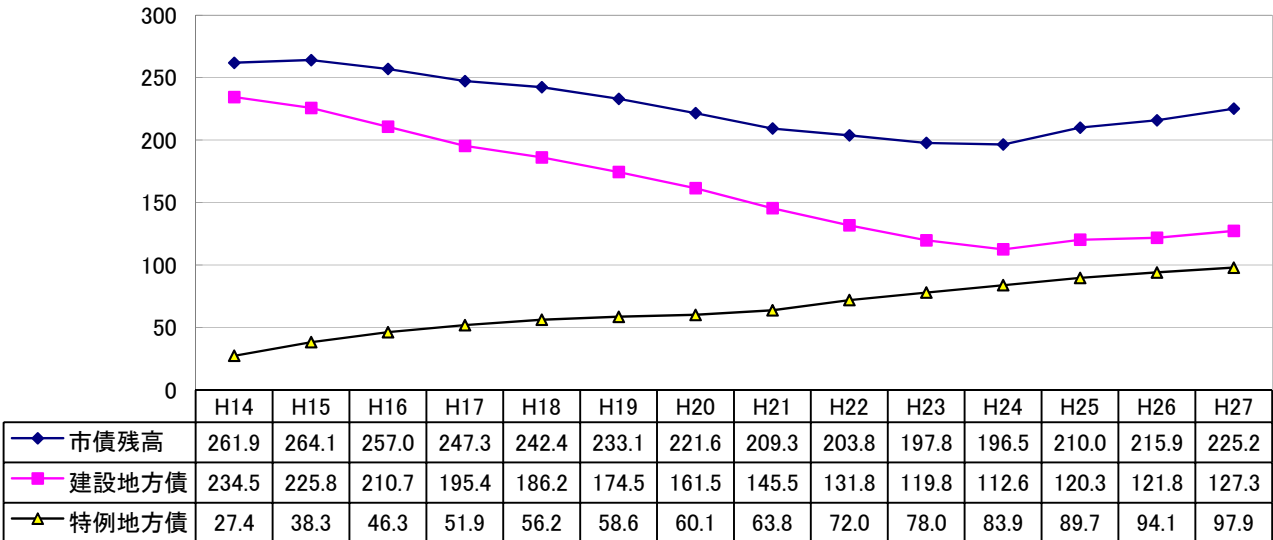
### ⑧市債残高の推移



笠岡湾干拓地 ポピー

減少傾向だった建設地方債の残高も、H25からは増加に転じています。市債残高を縮減させるため、今後も建設地方債の借入抑制と一括償還を継続していく必要があります。

#### 市債残高の推移



### ⑨市全体の市債残高の推移

特別会計や企業会計，土地開発公社を含めた市全体の市債残高も，健全化の取組により順調に減少してきましたが，ハード事業の積極的な実施や特例地方債の積み上がりによる普通会計の残高増により，H27では増加しました。

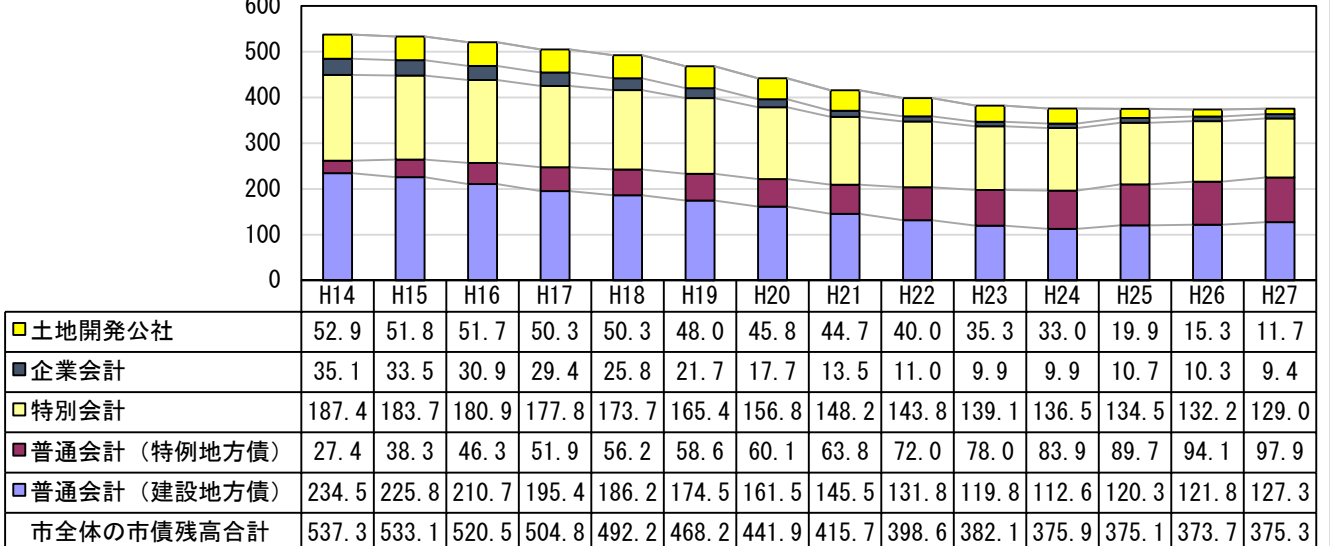
#### 特別会計の市債

主に下水道事業での借入金

#### 企業会計の市債

水道事業，病院事業での借入金

#### 市全体の市債残高の推移





⑩県内他市との比較からみた笠岡市の特徴（H26年度）

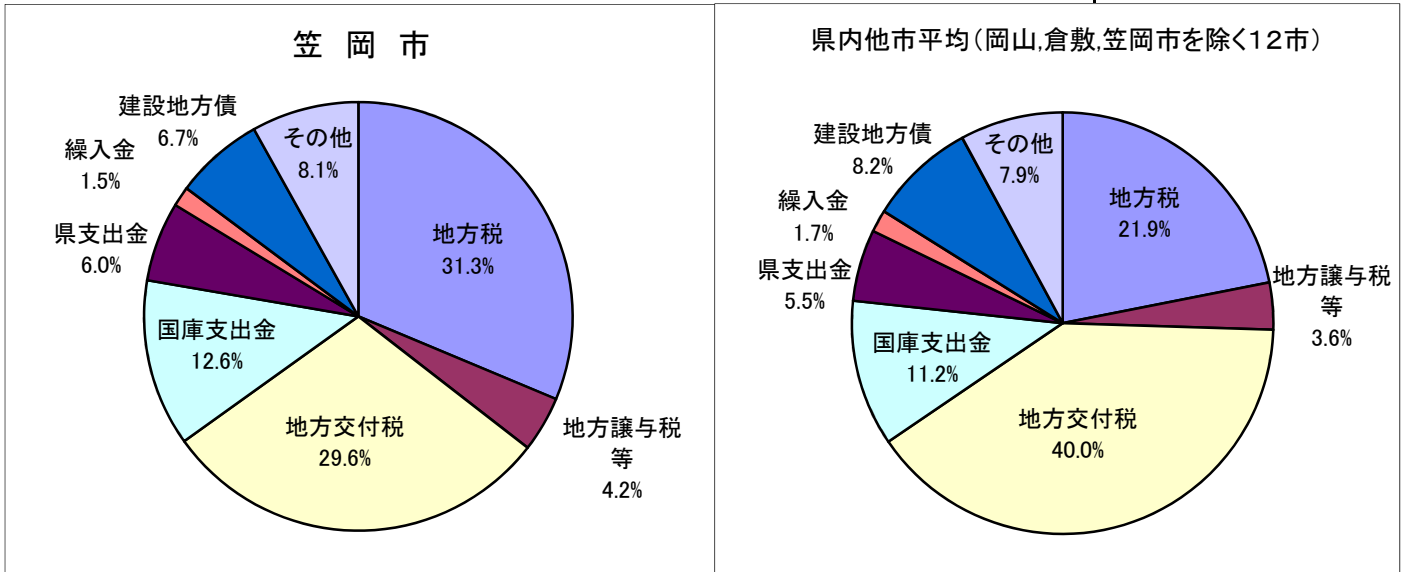
(1) 歳入

県内の他市と比較すると、地方税の割合は高く、逆に地方交付税の割合は、低くなっています。

また、建設地方債の割合が低いことも笠岡市の特徴です。



笠岡湾干拓地ひまわり



[歳入]

単位：千円，%

区分	笠岡市	構成比	県内平均	構成比
1 地方税	7,174,035	31.3%	5,614,349	21.9%
2 地方譲与税等	944,376	4.2%	912,432	3.6%
3 地方交付税	6,785,918	29.6%	10,227,179	40.0%
4 国庫支出金	2,894,106	12.6%	2,868,805	11.2%
5 県支出金	1,376,414	6.0%	1,414,481	5.5%
6 繰入金	348,159	1.5%	448,495	1.7%
7 建設地方債	1,528,000	6.7%	2,088,700	8.2%
8 その他	1,849,208	8.1%	2,021,148	7.9%
合計	22,900,216	100.0%	25,595,589	100.0%



道の駅笠岡ベイアーム



六島の水仙

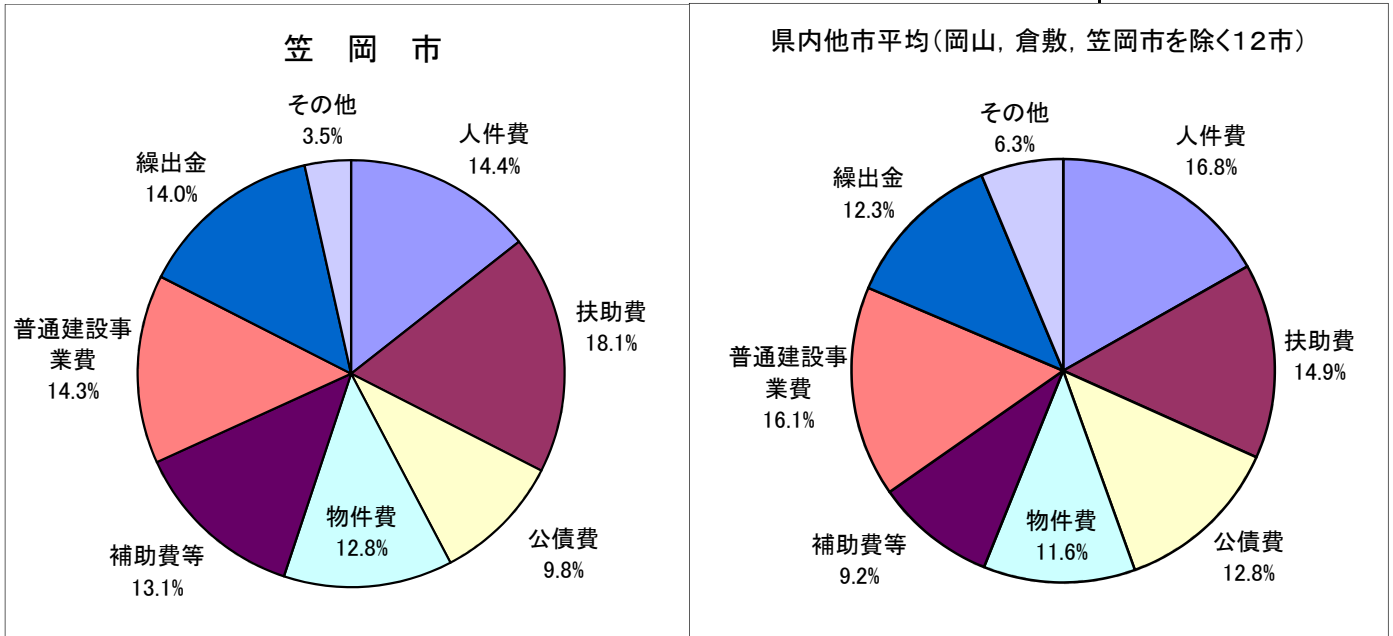
(2) 歳出

県内の他市と比較すると、扶助費、物件費、補助費等、繰出金の割合が高くなっています。

また、人件費、公債費、普通建設事業費の割合が低くなっていることも笠岡市の特徴です。



太陽の広場



[歳出]

単位：千円，%

区分	笠岡市	構成比	県内平均	構成比
1 人件費	3,207,281	14.4%	4,121,809	16.8%
2 扶助費	4,023,499	18.1%	3,648,700	14.9%
3 公債費	2,194,935	9.8%	3,140,820	12.8%
4 物件費	2,858,642	12.8%	2,848,235	11.6%
5 補助費等	2,905,139	13.1%	2,255,644	9.2%
6 普通建設事業費	3,194,589	14.3%	3,934,502	16.1%
7 繰出金	3,108,678	14.0%	2,999,046	12.3%
8 その他	789,755	3.5%	1,538,717	6.3%
合計	22,282,518	100.0%	24,487,473	100.0%



笠岡湾干拓地 コスモス

**補助費等**

一部事務組合負担金、企業会計への補助金、各種団体への補助金・負担金など。

**繰出金**

特別会計に対し、収支不足の補てんや繰出基準により支出される経費。



景気の動向は、世界情勢などの影響で不透明さが増しており、今後も厳しい見通しで臨まなければなりません。

一方、人口は年々減少しながら、高齢化率は上昇する傾向となっています。このため、『笠岡市人口ビジョン』での人口予測等をもとに、今後の中期的な財政見通しを把握します。平成 31 年 10 月に延期されました消費税率 10%への引き上げについては反映させず、現行制度の中で推計しています。

### ①基本的事項

- ・期間は、平成 28 年度～38 年度の 11 年間で、普通会計が対象です。
- ・当初予算編成時における財源不足の実態を把握するために、平成 29～38 年度は財政調整基金の取崩しはせず、決算剰余金は、繰越金として計上しないこととしています。

### ②歳入推計方法

#### ・市税と諸税

現在の経済情勢や平成 27 年度の決算見込みからの推計によります。  
消費税率の 10%への引き上げは加味していません。

#### ・普通交付税

公債費関係算入額は積み上げによります。  
収入額は、市税等の推計と連動させます。  
臨時財政対策債は、平成 28 年度ベースで推計します。

#### ・国・県支出金

扶助費と普通建設事業費については歳出推計と連動で推計し、その他の事業については、原則として平成 27 年度ベースとします。

#### ・市債

歳出推計のハード事業に連動させます。

#### ・その他の歳入

歳出に連動するものを除き、平成 27 年度ベースとします。

※市税には、地方特例交付金を含みます。

※地方交付税には、臨時財政対策債を含みます。

### ③歳出推計方法

#### ・人件費

現在の組織機構と定員適正化計画を基本として推計します。

#### ・公債費

歳入の市債見込額による推計とします。(利率は、1.0%を見込んでいます)

#### ・扶助費、補助費等、普通建設事業費など

総合計画実施計画を基本に、担当課積み上げで推計します。  
積み上げが難しい事業は、平成 27 年度と同額程度を見込みます。



白石踊 (白石島)



大島の傘踊り

#### 地方特例交付金

減税に伴う減収額の一部を補てんするための地方税の代替え財源。

#### 臨時財政対策債

##### (特例地方債)

地方に必要な普通交付税に対し国税が不足する場合、その代替えとして発行される特例地方債。



金浦のおしぐらんご



金浦のヒッタカ

④中期財政見通し（普通会計：推計は平成28年9月現在）

全国高等学校総合体育大会  
ウェイトリフティング競技大会開催



1 歳入

区 分	H27 決算	伸率%	H28 見込	伸率%	H29 推計	伸率%	H30 推計	伸率%	H31 推計	伸率%
市税	7,051,297	△1.7	6,871,228	△2.6	6,868,295	0.0	6,802,479	△1.0	6,825,125	0.3
地方譲与税	217,245	5.2	207,900	△4.3	206,750	△0.6	205,623	△0.5	204,519	△0.5
利子割～自動車取得税交付金	1,149,111	57.4	1,159,700	0.9	1,150,620	△0.8	1,141,621	△0.8	1,132,704	△0.8
地方交付税	6,703,615	△1.2	6,476,809	△3.4	6,455,832	△0.3	6,562,849	1.7	6,540,013	△0.3
交通安全対策特別交付金	8,274	4.6	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0
分担金及び負担金	333,665	△33.4	317,556	△4.8	265,576	△16.4	270,921	2.0	268,576	△0.9
使用料	296,489	△6.0	288,288	△2.8	267,349	△7.3	268,145	0.3	268,950	0.3
手数料	142,844	14.7	161,914	13.4	187,776	16.0	180,695	△3.8	193,630	7.2
国庫支出金	2,789,999	△3.6	3,559,766	27.6	2,994,791	△15.9	2,630,630	△12.2	2,477,563	△5.8
県支出金	1,240,557	△9.9	1,467,201	18.3	1,412,444	△3.7	1,286,403	△8.9	1,300,294	1.1
財産収入	40,813	△1.8	29,328	△28.1	29,063	△0.9	28,177	△3.0	28,149	△0.1
寄附金	35,297	△16.3	41,447	17.4	40,702	△1.8	40,651	△0.1	40,642	0.0
繰入金	396,688	13.9	821,492	107.1	38,466	△95.3	98,660	156.5	30,607	△69.0
繰越金	417,698	74.6	341,010	△18.4	0	皆減	0	—	0	—
諸収入	643,276	9.9	662,444	3.0	1,234,632	86.4	627,423	△49.2	627,118	0.0
市債	2,412,800	57.6	2,485,200	3.0	2,569,200	3.4	1,457,900	△43.3	1,049,200	△28.0
歳入合計(A)	23,879,668	4.3	24,899,557	4.3	23,729,770	△4.7	21,610,451	△8.9	20,995,364	△2.8

2 歳出

区 分	H27 決算	伸率%	H28 見込	伸率%	H29 推計	伸率%	H30 推計	伸率%	H31 推計	伸率%
人件費	3,265,784	1.8	3,479,260	6.5	3,312,236	△4.8	3,412,456	3.0	3,294,348	△3.5
物件費	2,999,792	4.9	3,061,685	2.1	2,951,090	△3.6	2,972,203	0.7	3,027,657	1.9
維持補修費	260,257	8.1	281,556	8.2	295,633	5.0	310,415	5.0	325,936	5.0
扶助費	4,080,688	1.4	4,326,738	6.0	4,058,224	△6.2	4,074,533	0.4	4,076,780	0.1
補助費等	2,546,051	△12.4	2,545,623	0.0	2,632,830	3.4	2,946,649	11.9	2,781,918	△5.6
普通建設事業費	3,793,544	18.7	4,788,378	26.2	4,899,957	2.3	2,803,378	△42.8	2,102,086	△25.0
災害復旧事業費	76,442	△26.2	462,900	505.6	30,000	△60.8	0	皆減	0	—
公債費	2,622,981	19.5	2,102,484	△19.8	2,172,834	3.3	2,099,771	△3.4	2,089,436	△0.5
積立金	132,184	129.6	38,247	△71.1	42,904	12.2	31,673	△26.2	31,636	△0.1
投資及び出資金	78,127	25.2	108,791	39.2	116,495	7.1	95,030	△18.4	73,439	△22.7
貸付金	325,000	△0.1	375,000	15.4	375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0
繰出金	3,117,808	0.3	3,078,879	△1.2	3,086,705	0.3	3,122,976	1.2	3,146,409	0.8
歳出合計(B)	23,298,658	4.6	24,649,541	5.8	23,973,908	△2.7	22,244,084	△7.2	21,324,645	△4.1

うち社会保障関連経費	6,383,100	1.9	6,615,312	3.6	6,409,870	△3.1	6,451,225	0.6	6,465,557	0.2
------------	-----------	-----	-----------	-----	-----------	------	-----------	-----	-----------	-----

3 収 支

区 分	H27 決算	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計
歳入歳出差引額(C=A-B)	581,010	250,016	△244,138	△633,633	△329,281
翌年度へ繰越べき財源(D)	99,917	0	0	0	0
実質収支(C-D)	481,093	250,016	△244,138	△633,633	△329,281



笠岡湾干拓地 菜の花畑

H32 推計	伸率%	H33 推計	伸率%	H34 推計	伸率%	H35 推計	伸率%	H36 推計	伸率%	H37 推計	伸率%	H38 推計	伸率%
6,832,095	0.1	6,764,675	△1.0	6,759,213	△0.1	6,755,749	△0.1	6,692,308	△0.9	6,694,073	0.0	6,697,719	0.1
203,436	△0.5	202,375	△0.5	201,336	△0.5	200,317	△0.5	199,319	△0.5	198,340	△0.5	197,382	△0.5
1,123,867	△0.8	1,115,110	△0.8	1,106,432	△0.8	1,097,832	△0.8	1,089,309	△0.8	1,080,863	△0.8	1,072,493	△0.8
6,563,419	0.4	6,624,137	0.9	6,620,069	△0.1	6,501,371	△1.8	6,548,574	0.7	6,521,126	△0.4	6,507,921	△0.2
8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0	8,274	0.0
266,435	△0.8	271,998	2.1	269,765	△0.8	271,737	0.7	271,362	△0.1	271,391	0.0	271,873	0.2
269,172	0.1	269,188	0.0	269,051	△0.1	268,914	△0.1	268,753	△0.1	268,592	△0.1	268,430	△0.1
176,793	△8.7	173,748	△1.7	186,892	7.6	170,257	△8.9	167,408	△1.7	180,742	8.0	164,292	△9.1
2,441,027	△1.5	2,427,890	△0.5	2,793,100	15.0	3,073,092	10.0	2,764,317	△10.0	2,617,193	△5.3	2,413,140	△7.8
1,312,756	1.0	1,271,869	△3.1	1,317,751	3.6	1,288,780	△2.2	1,293,673	0.4	1,328,534	2.7	1,306,318	△1.7
28,155	0.0	28,166	0.0	28,231	0.2	28,268	0.1	28,303	0.1	28,256	△0.2	28,252	0.0
40,634	0.0	40,625	0.0	40,617	0.0	40,608	0.0	40,600	0.0	40,592	0.0	40,583	0.0
30,607	0.0	30,607	0.0	30,607	0.0	30,607	0.0	125,185	309.0	41,813	△66.6	20,795	△50.3
0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
626,859	0.0	626,639	0.0	617,787	△1.4	617,628	0.0	617,492	0.0	617,378	0.0	617,280	0.0
1,122,100	6.9	1,288,200	14.8	1,694,100	31.5	4,407,400	160.2	1,179,900	△73.2	910,700	△22.8	653,900	△28.2
21,045,629	0.2	21,143,501	0.5	21,943,225	3.8	24,760,834	12.8	21,294,777	△14.0	20,807,867	△2.3	20,268,652	△2.6

H32 推計	伸率%	H33 推計	伸率%	H34 推計	伸率%	H35 推計	伸率%	H36 推計	伸率%	H37 推計	伸率%	H38 推計	伸率%
3,290,802	△0.1	3,153,537	△4.2	3,220,424	2.1	3,208,451	△0.4	3,352,269	4.5	3,156,661	△5.8	3,013,841	△4.5
2,964,331	△2.1	2,951,163	△0.4	2,985,120	1.2	2,971,463	△0.5	2,984,827	0.4	2,998,881	0.5	2,941,563	△1.9
342,233	5.0	359,344	5.0	377,312	5.0	396,177	5.0	415,986	5.0	436,785	5.0	458,625	5.0
4,067,013	△0.2	4,065,426	0.0	4,063,963	0.0	4,062,155	0.0	4,060,481	0.0	4,058,452	0.0	4,063,510	0.1
2,565,979	△7.8	2,505,243	△2.4	2,596,671	3.6	2,603,334	0.3	2,506,091	△3.7	2,459,795	△1.8	2,506,066	1.9
2,172,105	3.3	2,393,112	10.2	3,081,504	28.8	5,884,369	91.0	2,417,918	△58.9	1,932,053	△20.1	1,419,183	△26.5
0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—
2,170,077	3.9	2,296,734	5.8	2,311,902	0.7	2,252,356	△2.6	2,202,880	△2.2	2,224,143	1.0	2,243,537	0.9
45,599	44.1	144,763	217.5	96,772	△33.2	88,364	△8.7	31,748	△64.1	31,693	△0.2	39,918	26.0
68,737	△6.4	63,174	△8.1	41,599	△34.2	31,477	△24.3	31,404	△0.2	124,660	297.0	121,998	△2.1
375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0	375,000	0.0
3,153,090	0.2	3,133,441	△0.6	3,120,254	△0.4	3,060,680	△1.9	3,029,244	△1.0	2,954,796	△2.5	2,957,156	0.1
21,214,966	△0.5	21,440,937	1.1	22,270,521	3.9	24,933,826	12.0	21,407,848	△14.1	20,752,919	△3.1	20,140,397	△3.0

6,467,489	0.0	6,462,728	△0.1	6,451,086	△0.2	6,446,979	△0.1	6,444,001	0.0	6,441,379	0.0	6,445,332	0.1
-----------	-----	-----------	------	-----------	------	-----------	------	-----------	-----	-----------	-----	-----------	-----

H32 推計		H33 推計		H34 推計		H35 推計		H36 推計		H37 推計		H38 推計	
△169,337		△297,436		△327,296		△172,992		△113,071		54,948		128,255	
0		0		0		0		0		0		0	
△169,337		△297,436		△327,296		△172,992		△113,071		54,948		128,255	

## ⑤平成28年度から38年度の見通し

### (1) 歳入

#### ・市税

H28は、法人市民税や固定資産税の減収により、市税全体でも減収となる見込みです。その後も緩やかな減少傾向で推移する見込みです。

#### ・地方交付税

H28では、普通交付税・臨時財政対策債とも大幅減となりました。

H29年度以降は、ほぼ横ばいで推移する見込みです。

#### ・市債

H28は、災害復旧のための借入により増となり、H29は、学校給食センター整備のために、更に増となる見込みです。H32以降は駅周辺整備事業等の実施により多額の借入が必要となる見込みです。



北木島の流し雛

### 見通しのポイント

#### 歳入

市税・地方交付税などを合わせた経常的な一般財源は減少傾向。

#### 歳出

社会保障関連経費や公共施設の老朽化による改築、長寿命化事業は増加傾向。

### (2) 歳出

#### ・人件費

職員給は減少傾向ですが、定年退職者の増減により総額は変動します。

#### ・補助費等

企業誘致のための補助金や一部事務組合への負担金などを見込んだことにより、H29～H31は高い水準となっています。

#### ・普通建設事業費

H28では、笠岡諸島交流センターの建設や相生トンネルの大規模修繕・更新事業等により大幅な増となっています。H29は、学校給食センター整備により増となり、その後も駅周辺整備事業など大規模ハード事業が続く予定です。

#### ・社会保障関連経費

高齢者の医療や介護にかかる給付の伸びにより、H32までは増える見込みですが、H33以降は人口減少の影響により、微減傾向になると見込んでいます。



真鍋島の走り神輿

### (3) 収支の見通し

H28は、2億5千万円程度の黒字となる見込みです。

H29は、約2億4千万円の財源不足ですが、H30、H31は、企業誘致のための補助金により、それぞれ約6億円、約3億円の財源不足となる見込みです。

H32～H36は、駅周辺整備事業等により、約1億円～3億円の財源不足が生じる見込みです。



笠岡駅フラワーアート



## ①基本的な考え方

第7次笠岡市行政改革大綱の基本方針により、自主財源の確保を図るとともに、経費の削減や定員管理・給与の適正化の推進などを実施し、財源不足を圧縮し、将来世代の負担軽減のために、公債費の一括償還や基金の積み増しを行います。

また、『笠岡市人口ビジョン』に掲げた目標を達成するために『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に掲げた施策を積極的に実施します。

こうした取り組みにより『第6次笠岡市総合計画』の成果を確実に出すとともに、その成果を第7次総合計画に繋げ、新しいまちづくりを推進していきます。

### (1) 計画期間

平成28年度から平成38年度までの11年間とします。(毎年度見直し)

### (2) 基本方針

- ・第7次笠岡市行政改革大綱の基本方針を着実に推進します。
- ・将来負担の軽減のため、債務の抑制を図ります。  
特に笠岡市土地開発公社については、H29までに全ての借入金を償還し、さらなる経営健全化を図ります。
- ・安定した財政運営を継続するため、財政調整基金は目標額を20億円とします。また、施設の更新等に備え、公共施設整備引当基金も積み増します。
- ・ふるさと納税を増額するための取組を強化するなど、自主財源の積極的な確保を図ります。
- ・公共施設等総合管理計画に基づき施設の長寿命化と施設全体規模の適正化を進めるとともに、施設が提供するサービスの充実を図ります。
- ・『第6次笠岡市総合計画』の総仕上げを確実に行うとともに、第7次総合計画の策定を進め、従来の施策の見直しと新たな施策の推進を図ります。
- ・『笠岡市人口ビジョン』に掲げた目標を達成するために『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に掲げた施策を積極的に実施します。

### 財政運営適正化計画

- ・行政改革の推進
- ・債務の抑制
- ・基金の積み増し
- ・ふるさと納税等の自主財源確保
- ・公共施設の適正化
- ・新たな施策の推進
- ・総合戦略の積極的な実施



笠岡ラーメン



カブトガニ繁殖地

実質公債費比率と、将来負担比率は、予想以上に数値が改善しているため、H27年度から目標値を引下げています。

・財政指標等については、数値目標を次のとおりとします。

指標名等	行政改革大綱 総合計画	財政運営適正化計画	H27 決算速報値
実質公債費比率	10.0%未満	9.0%未満	6.5%
将来負担比率	100.0%未満	90.0%未満	65.2%
経常収支比率	90.0%未満	90.0%未満	90.7%
財政調整基金残高	20億円以上	20億円以上	17.0億円



②具体的な方策（第7次笠岡市行政改革大綱の基本方針による）

1 将来の負担を軽減する取り組み

(1) 債務の抑制

・市債残高の抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設地方債（下水道事業債を含む）の借入額に上限を設定します。</li> <li>・公債費が普通交付税に算入されない市債の発行抑制と一括償還を同時に進めます。</li> </ul>
・土地開発公社の経営健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29までに全ての借入金を償還します。</li> </ul>

(2) 適正な基金残高の維持

・適正な財政調整基金の維持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財源不足に備えるため、目標額を20億円とします。</li> </ul>
・公共施設整備費引当基金等への積立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模ハード事業、長寿命化事業に備えるため基金を積み増します。</li> </ul>

2 歳入を増加させる取り組み

(1) 財源の確保

・課税客体の的確な把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・償却資産の調査を継続し、税収増に努めます。</li> </ul>
・市税等収納率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見込額の0.5%増収を目標とします。</li> </ul>
・滞納繰越金、現年度未収金の縮減策強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞納処分を強化すると共に、口座振替等を拡大します。</li> </ul>
・市有地の売却と有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未利用地の積極的な処分と有効利用を進めます。</li> </ul>
・産業振興施策と企業誘致の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興ビジョンを着実に実行し、企業誘致や時代に対応した特色のある産業の振興を推進します。</li> </ul>
・使用料・手数料の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受益者負担の公平性を確保するため、見直しを行います。</li> </ul>
・新たな財源確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税を増額するための取組を強化します。</li> <li>・幅広く広告掲載することで、広告料の確保に努めます。</li> <li>・事業実施にあたっては、財源の確保に努めます。</li> </ul>

### 3 歳出を削減する取り組み

(1) 効率的な行政サービスの推進	
・ 施策・事業の効果的な推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前評価や施策評価により、事業の選択と重点化を図ります。</li> <li>・ 既存事業の見直しを図ります。</li> </ul>
・ 行政組織の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織機構の充実が図れるよう、常に点検をし、見直しを行います。</li> </ul>
・ 業務の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P F I 等、新たな社会資本整備手法を検討します。</li> <li>・ 周辺自治体との業務の広域連携を検討し、推進します。</li> <li>・ 指定管理者制度の活用を拡大します。</li> </ul>
・ 市有財産の管理と有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市有財産の民間等への貸付を積極的に進めます。</li> <li>・ 公共施設等総合管理計画に基づき施設の長寿命化など、適正な施設管理とサービスの充実を進めます。</li> </ul>
(2) 経費の削減	
・ 補助金の適切な交付と検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営補助から事業補助へ転換し、補助率を設定します。</li> <li>・ 新規の補助金は、サンセット方式を徹底します。</li> <li>・ 補助の必要性和効果を検証します。</li> </ul>
・ 内部管理経費の節減合理化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値目標を定めて、節減合理化に努めます。</li> </ul>
・ 特別会計繰出金、 一部事務組合負担金の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下水道事業会計の経営の健全化を推進します。</li> <li>・ 見込額の1%の削減を目標とします。</li> </ul>
・ 市民病院の経営健全化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新たな改革プランに沿って、経営の健全化を推進します。</li> </ul>
(3) 定員管理・給与の適正化の推進	
・ 定員管理の適正化推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員適正化計画により定員管理を行います。</li> </ul>
・ 給与の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給与制度を見直します。</li> <li>・ 各種手当を見直します。</li> </ul>

③財政運営適正化計画実施後の収支見通し

(1) 決算ベースでの収支の把握

中期財政見通し（P10～11）では、当初予算編成時での財源不足把握のため、H29以降は、財政調整基金の取り崩しをせず、前年度の決算剰余金は、翌年度に繰越金として計上しないこととし推計しました。

ここでは、決算剰余金を3億円、繰越金を1億5千万円として、実際の決算ベースでの財政調整基金の取崩額を把握することとしています。

（H28の具体的方策効果額は、平成28年度下半期分として積算）

1 歳入

区 分	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計	H32 推計	H33 推計	H34 推計
中期財政見通し歳入合計	24,899,557	23,729,770	21,610,451	20,995,364	21,045,629	21,143,501	21,943,225
自主財源の確保	24,250	51,000	56,600	61,600	66,600	70,900	75,700
ふるさと納税の増額	80,000	200,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
市債借入額の抑制	△18,300	△18,300	△18,200	△18,200	△18,200	△18,200	△18,200
繰越金		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
財政調整基金繰入金	2,134	46,263	354,577	47,400		23,226	50,861
基金繰入金(公共施設整備費引当基金等)		10,000	10,000	10,000			
財政運営適正化計画実施後の歳入合計	24,987,641	24,168,733	22,663,428	21,746,164	21,744,029	21,869,427	22,701,586

※H28 繰越金は、341,010を計上済み。

※H28 財政調整基金繰入金は、632,000を計上済み。

2 歳出

区 分	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計	H32 推計	H33 推計	H34 推計
中期財政見通し歳出合計	24,649,541	23,973,908	22,244,084	21,324,645	21,214,966	21,440,937	22,270,521
効率的な行政サービスの推進	△7,000	△202,000	△202,000	△202,000	△202,000	△202,000	△202,000
経費の削減	△22,900	△47,000	△46,500	△46,700	△32,800	△32,700	△32,500
ふるさと納税返礼品の充実	58,000	145,000	362,500	362,500	362,500	362,500	362,500
公共施設の長寿命化・適正化の推進		10,000	10,000	10,000	50,000	10,000	10,000
定員管理・給与の適正化の推進		△17,367	△17,367	△11,578	△11,578	△11,578	△5,789
公債費の一括償還	10,000	10,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
公債費の一括償還と発行抑制による効果額		△3,808	△7,289	△10,703	△14,251	△17,732	△21,146
財政調整基金積立金					57,192		
基金積立金(公共施設整備費引当基金等)							
財政運営適正化計画実施後の歳出合計	24,687,641	23,868,733	22,363,428	21,446,164	21,444,029	21,569,427	22,401,586

3 収支(決算剰余金)

区 分	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計	H32 推計	H33 推計	H34 推計
財政運営適正化計画実施後歳入歳出差引額	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000

4 財政調整基金残高

内 訳	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計	H32 推計	H33 推計	H34 推計
前年度末残高	1,704,333	1,310,199	1,413,936	1,209,359	1,311,959	1,519,151	1,645,925
決算剰余積立額(歳入歳出差引額の1/2以上)	240,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
基金積立額	0	0	0	0	57,192	0	0
基金繰入額(取崩額)	△634,134	△46,263	△354,577	△47,400	0	△23,226	△50,861
当該年度末残高	1,310,199	1,413,936	1,209,359	1,311,959	1,519,151	1,645,925	1,745,064

5 公共施設整備費引当基金残高

区 分	H28 見込	H29 推計	H30 推計	H31 推計	H32 推計	H33 推計	H34 推計
当該年度末残高	32,960	30,316	27,671	25,025	32,378	39,734	47,094

(2) 収支見通し

H28 では、災害復旧等により、財政調整基金を約 6 億 3 千万円取り崩すこととなる見込みです。  
H29 以降は、ふるさと納税を着実に増やし、H30 以降は、5 億円の寄附を目標としています。それでも H30 では、企業誘致のための補助金により大きな財源不足が発生する見込みです。

H31 以降は、財源不足が発生する年もありますが、決算剰余金の半分を財政調整基金に積み立てるため、基金残高は順調に増えて行く見込みです。

その結果、財政調整基金残高は、H35 に目標の 20 億円に達する見込みです。その後は、公共施設の更新や大規模改修に備えて、公共施設整備費引当基金の積立に重点を移し、H38 には、約 10 億円まで積み増しできる見込みです。

毎年の予算編成の中で、さらなる財政健全化に取り組み、基金を積み増していく必要があります。

H35 推計	H36 推計	H37 推計	H38 推計
24,760,834	21,294,777	20,807,867	20,268,652
80,600	84,900	89,800	94,700
500,000	500,000	500,000	500,000
△18,200	△18,200	△18,200	△18,200
150,000	150,000	150,000	150,000
	100,000	100,000	100,000
25,473,234	22,111,477	21,629,467	21,095,152

(3) 今後の財政運営について

市税、地方交付税等の一般財源は、今後も大幅な増収は見込めないものと予測されます。一方、社会保障関連や公共施設の更新・長寿命化に要する経費は増額していく見込みです。

非常に厳しい状況ですが、人口減少への対応には、産業振興や子育て支援、駅周辺地域の再整備などソフト・ハードの両面から思い切った施策を進める必要があります。

そういった事業を実施するためにも、自主財源の確保として、ふるさと納税の増額に向けて、様々な手法で全庁を挙げて取り組んでいきます。

そして、「入るを量りて出ざるを制す」を基本とし、安定した財政運営に努めます。

H35 推計	H36 推計	H37 推計	H38 推計
24,933,826	21,407,848	20,752,919	20,140,397
△202,000	△202,000	△202,000	△202,000
△31,900	△31,600	△30,800	△30,900
362,500	362,500	362,500	362,500
10,000	100,000	100,000	100,000
△5,789	△5,789	△5,789	△5,789
20,000	20,000	20,000	20,000
△21,161	△21,451	△21,206	△21,221
107,758			
	181,969	353,843	432,165
25,173,234	21,811,477	21,329,467	20,795,152

H35 推計	H36 推計	H37 推計	H38 推計
300,000	300,000	300,000	300,000

H35 推計	H36 推計	H37 推計	H38 推計
1,745,064	2,002,822	2,052,822	2,102,822
150,000	150,000	150,000	150,000
107,758	0	0	0
	△100,000	△100,000	△100,000
2,002,822	2,052,822	2,102,822	2,152,822

H35 推計	H36 推計	H37 推計	H38 推計
54,458	243,889	605,194	1,045,002

今回の中期財政見通しでは、消費税率の 10%への引き上げについては、収入増を加味しないこととして推計しております。

これは、消費税率 10%への改正と共に制度改正が見込まれる社会保障分野や地方交付税制度の内容が明らかになっていないことによるものです。

こうした影響額については、今後の制度変更に合わせて将来推計に反映させてまいりたいと考えております。



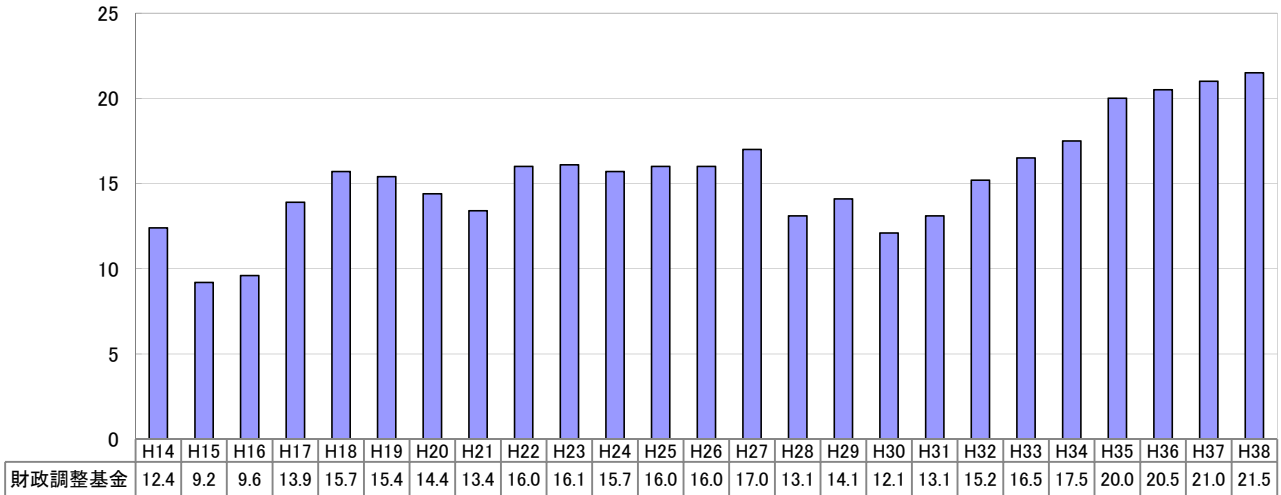
小野竹喬 山桜

## ① 財政調整基金残高の見込み

H22以降、ほぼ横ばいの状態でしたが、H27では、17億円まで積立てることが出来ました。

災害復旧や企業誘致のための補助金により、一時的に残高が減りますが、H32以降は順調に回復し、H35では、目標の20億円に達する見込みです。

億円 財政調整基金残高の見込み



## ② 土地開発公社借入金残高の見込み

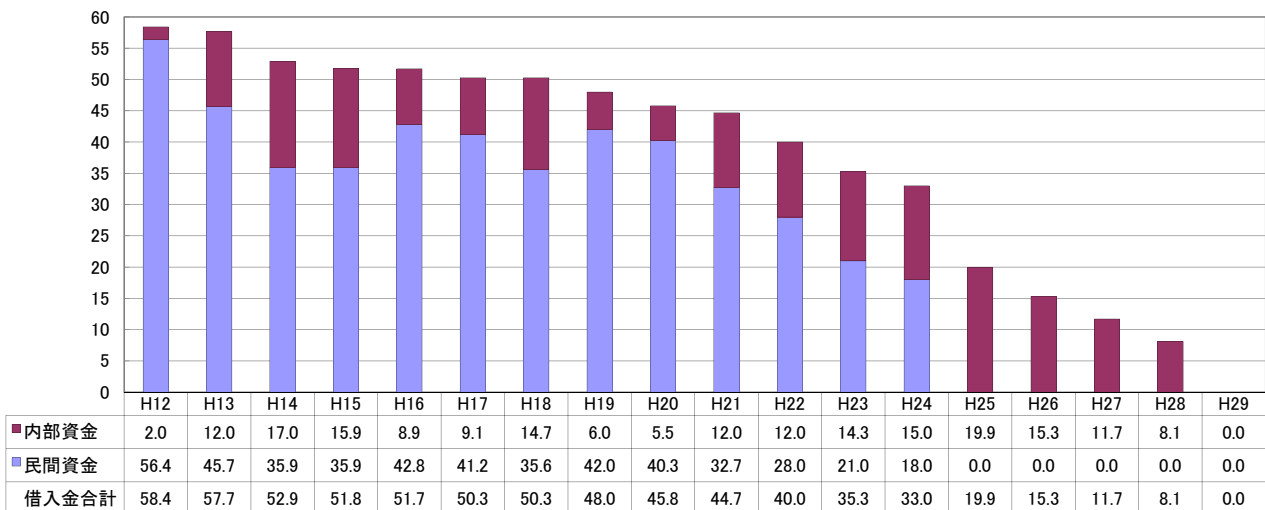
H25に新たな土地開発公社経営健全化計画を策定し、民間金融機関からの借入金を全額返済しました。更にH29までには、全ての借入金を返済することとしています。

### 土地開発公社

笠岡市が100%出資して設立した法人。

公共用地の先行取得や造成を行うことを主な業務としている。

億円 土地開発公社借入金残高の見込み





### ③公債費の見込み

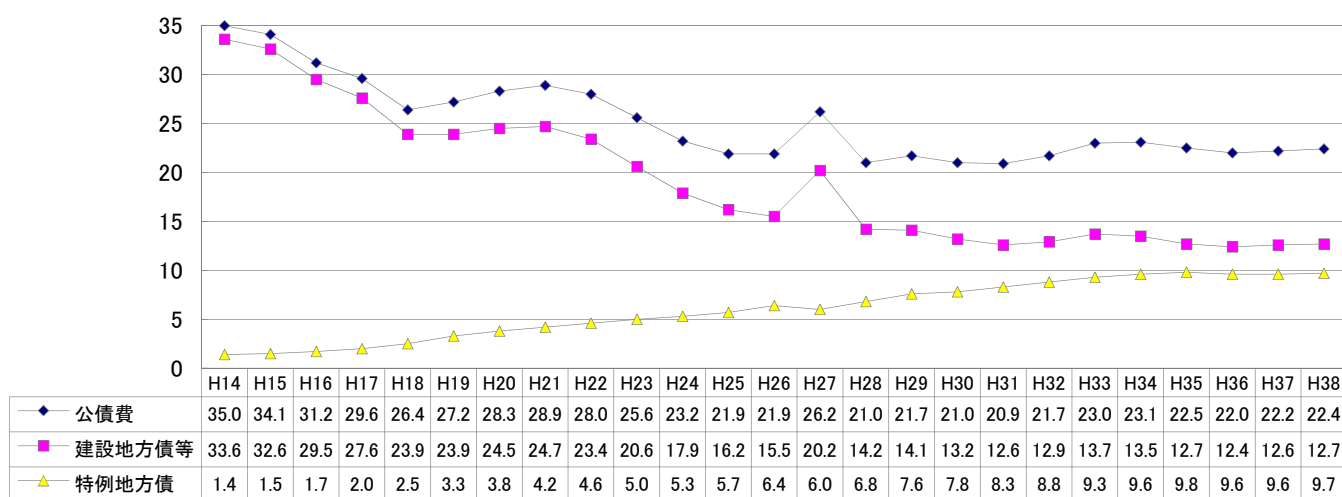
建設地方債等は、H27は給食センター用地取得のための公共用地先行取得債の繰上償還により大幅増となっています。H28以降は、ほぼ横ばいで推移する見込みです。

また、国の制度により、普通交付税から振り替わった臨時財政対策債（特例地方債）の償還は、今後も増加傾向が続きます。



古城山公園のさくら

公債費の見込み



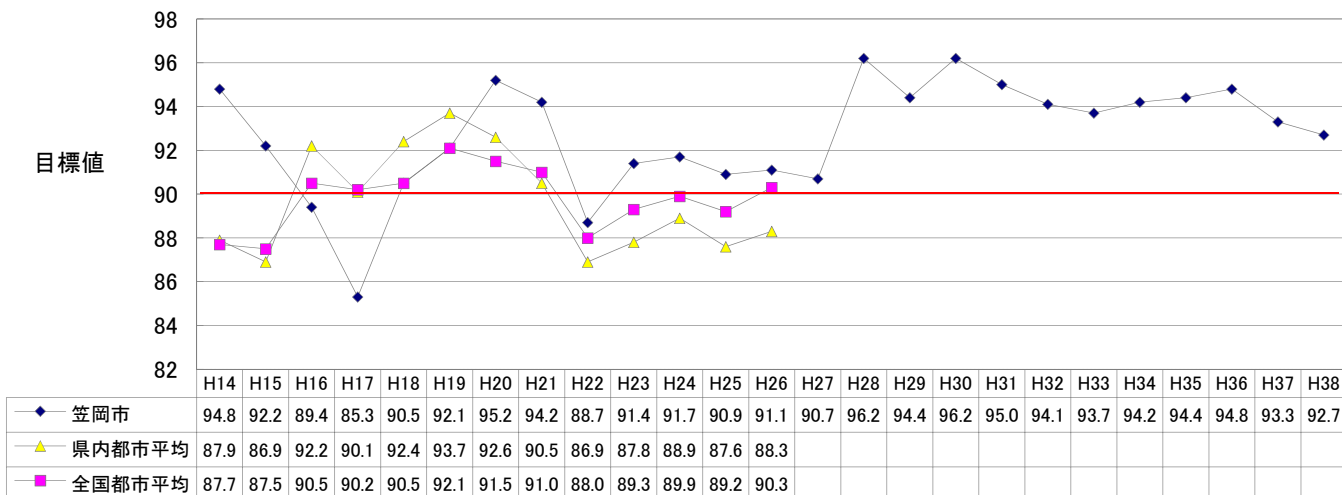
### ④経常収支比率の見込み

H27は、90.7%で前年度に対して0.4ポイント下がりましたが、H28は、市税・交付税の大幅な減に加えて、定年退職者の増により大幅に上昇する見込みです。その後も社会保障給付や公債費の増傾向により、高い水準で推移する見込みです。

#### 経常収支比率

人件費、扶助費、公債費等の経常経費が、市税等の経常的な一般財源に占める割合。  
（財政の弾力性を示す比率）

経常収支比率の見込み



### ⑤実質公債費比率の見込み

H27の比率は、6.5%となり、前年度に対して1.8ポイント改善し、目標の9.0%を下回っています。

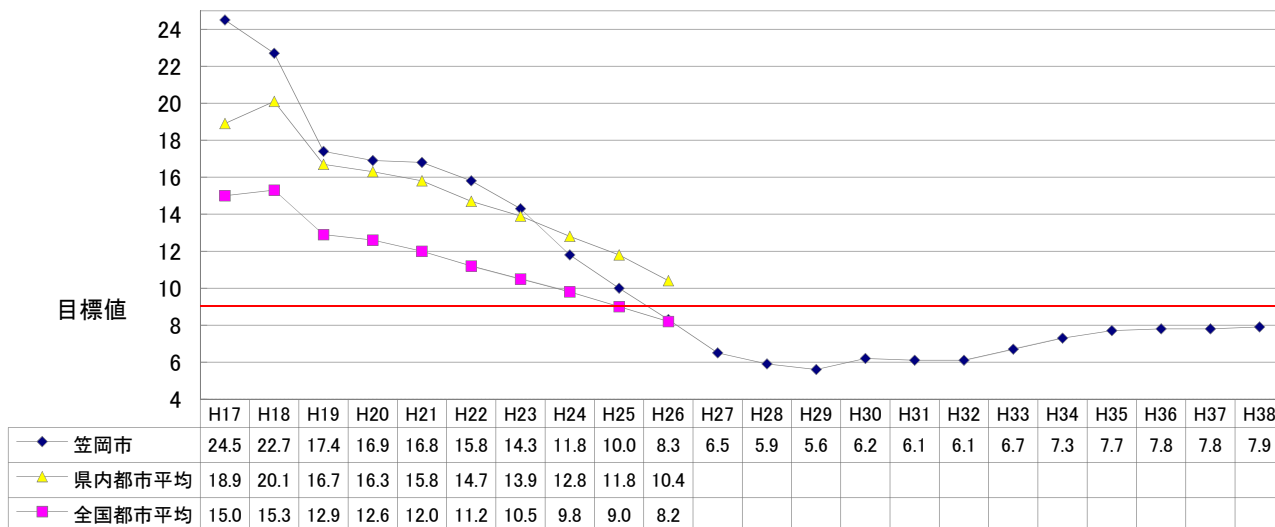
しかし、H30以降、比率は上昇傾向となり、H38では7.9%となる見込みです。引き続き債務の縮減等の財政健全化の取組を続ける必要があります。

#### 実質公債費比率

自由に使える収入に対して、企業会計など全会計の借金返済額が占める割合。財政健全化判断指標の一つ。

(3カ年の平均値)

実質公債費比率の見込み



### ⑥将来負担比率の見込み

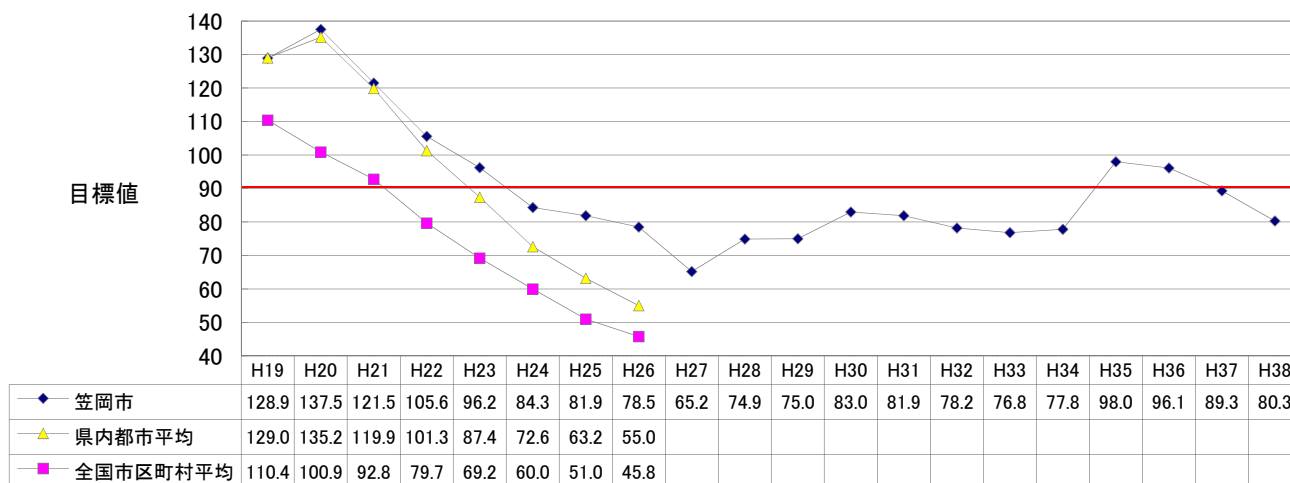
H27の比率は、65.2%で前年度に対して13.3ポイント改善しました。

H28以降は、大規模なハード事業が続く予定のため、市債残高が増となり比率は上昇する見込みです。将来負担の大幅な増を招かないように債務の縮減や事業の見直し等を図っていく必要があります。

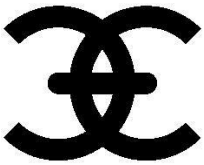
#### 将来負担比率

自由に使える収入に対して、企業会計など全会計の将来負担する負債の割合。

将来負担比率の見込み



歳 入 関 連	
一 般 財 源	市税，地方交付税など使い道が特定されず，どのような経費にも使用することができる財源。
特 定 財 源	国県支出金，使用料，手数料など，使途が特定されている財源。
市 税	市民税，固定資産税，軽自動車税など，市の基本的な財源。
地 方 交 付 税	地域によって地方税収入に差があるため，標準的な行政を行うために，国から国税の一部が交付される財源。（普通交付税と特別交付税）
諸 税	地方譲与税，利子割・地方消費税・ゴルフ場利用税・自動車取得税交付金，交通安全対策特別交付金を，便宜上ひとまとめにした呼び方。
市 債	地方公共団体が資金調達のために借り，その返済が一会計年度を超えて行われる借金。
建 設 地 方 債	公共施設の建設事業などの財源とするために発行される市債。
特 例 地 方 債	臨時財政対策債など，赤字を補てんしたり，財源を補てんする目的で，発行される市債。
臨時財政対策債	地方に必要な普通交付税に対し，国税が不足する場合，その代替えとして発行される特例地方債。
歳 出 関 連	
普通建設事業費	土木農林水産施設，教育施設など，公共施設の新增築等の建設経費。
繰 出 金	特別会計に対し，収支不足の補てんや繰出基準により支出される経費。
公 債 費	市が借り入れた市債の元利償還金及び一時借入金利子の合計額。
扶 助 費	各種法令や市単独の施策に基づき，生活保護者・障害者・老人・子供等に対して支給する費用。
物 件 費	光熱水費・通信運搬費などの内部管理経費，嘱託・臨時職員給，各種ソフト事業。
補 助 費 等	一部事務組合負担金，企業会計への補助金，各種団体への補助金・負担金など。
義 務 的 経 費	その支出が義務づけられ任意に削除できない経費。（人件費・扶助費・公債費）
財 政 分 析 関 連	
基 金	特定の目的のために設けられた基金又は財産。いわゆる貯金。
財政調整基金	経済の不況等による市税の大幅な減収や災害の発生等による不測の支出増加に対処するための貯金。
決 算 統 計	地方財政運営や国の施策の基礎数値となる全国統一基準による最も基本的かつ重要な統計のひとつ。（普通会計と公営事業会計）
標準財政規模	地方公共団体の一般財源の標準規模を示すもの。（市税と諸税，普通交付税の合計額等により算出）笠岡市の場合，約 135 億円。
經常収支比率	市税，諸税，普通交付税等の經常的な一般財源に対して，人件費，扶助費，公債費等の經常経費が占める割合。財政構造の弾力性を判断するための指標。



笠岡市総務部財政課

岡山県笠岡市役所  
〒714-8601 笠岡市中央町1番地の1

電話 (0865) 69-2125  
FAX (0865) 69-2190

Email: zaisei@city.kasaoka.okayama.jp

「市民協働で築く  
しあわせなまち  
活力ある福祉都市  
かさおか」を  
実現するために

ホームページもご覧ください

http://  
[www.city.kasaoka.okayama.jp](http://www.city.kasaoka.okayama.jp)



小田郡庁跡

☆平成21年4月から全面施行された地方公共団体財政健全化法における早期健全化基準等について、笠岡市の平成27年度決算ベースの各比率をお知らせします。

◎平成27年度笠岡市標準財政規模 約135億円

笠岡市の健全化判断基準			
指 標	笠岡市の比率	早期健全化基準	財政再生基準
		イエローカード	レッドカード
実質赤字比率	—	12.9%	20.0%
連結実質赤字比率	—	17.9%	30.0%
実質公債費比率	6.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	65.2%	350.0%	—

#### 実質赤字比率とは

一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率です。

- ・早期健全化基準は12.9% (イエローカード)
- ・財政再生基準は20.0% (レッドカード)

#### 連結実質赤字比率とは

全会計を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率です。

(一般会計+特別会計)

- ・早期健全化基準17.9% (イエローカード)
- ・財政再生基準30.0% (レッドカード)

#### 実質公債費比率とは

一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率です。

(一般会計等が負担する公債費が標準財政規模に占める割合)

- ・早期健全化基準25.0% (イエローカード)
- ・財政再生基準35.0% (レッドカード)

#### 将来負担比率とは

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率です。

(一般会計等+特別会計+公社会計等すべての会計)

- ・早期健全化基準350.0% (イエローカード)

◎上記のように、財政健全化法の4つの指標は、全て基準内に収まっています。これは、財政健全化にいち早く取り組んだ結果によるものですが、引き続き、歳入に見合った歳出構造の確立など財政運営の適正化に、より一層努める必要があります。